

歯車② 主体的な学びに向かう授業づくり

【ねらい】

複雑化する社会をたくましく生き抜くために必要な「集中して主体的に学ぶ力」や、「さまざまな情報をかきこく活用する力（情報活用能力）」を育成します。

【取組内容】

田川市では、一人1台のタブレット端末を用いて、「主体的に課題を見つけ、仲間と協働して問題解決する授業づくり」を目指して、日々の授業改善・授業改革に取り組んでいます。一人1台タブレット端末が配布されてから3年になりますが、この間様々な授業実践をしてきました。それらの実践を「ICT活用実践事例集」としてまとめ、各校の実態に応じて活用しています。



タブレットを使って自分の考えを整理する様子



タブレットを使ってお互いの考えを交換する様子

今後は、タブレット端末を活用して仲間と協働して学ぶことだけでなく、自分に合った方法で学習するなど自己選択・自己決定の場を大切に「個に応じた学習」をより充実させていきます。

また、効果のある授業スタイルを積極的に実践し、市内教職員で共有していきます。

歯車③ 家庭学習の充実

【ねらい】

家庭学習の必要性を感じながら、自ら学習計画を立て、学習内容を選択・判断し、主体的に家庭学習に取り組むことのできる「自学自習力」を育成します。

【取組内容】

全小・中学校において、「家庭学習強化・充実週間」を設定し、自ら計画的に家庭学習に励む取組を実施しています。

また、「自主学習のすすめ」を作成・配布し、今、自分に必要な力は何かを考えて課題に取り組んだり、自分が興味のあることを追究したりするなどの自主学習を推奨しています。さらに、モデルとなる自主学習ノートを全校で紹介するなどの工夫もしています。

今後は、タブレットドリルを用いて自分で課題を選んだり、次の日の授業内容と連動した課題に取り組んだりするなど、家庭での学習内容をより充実させていきます。



家庭学習は、その環境や方法によって、成果が大きく変わると言われています。集中できる環境を整え、しっかりと力が身に付く方法で行えば、大きな成果が得られます。今後も、学校と家庭とが手を取り合いながら家庭学習の質の向上を図ることで、「学んだことを知識として積み重ねる力」や「自分のスケジュールを管理する力」「粘り強さ」など、子どもたちが大人になったときに必要な力を育てていきます。

令和5年度

田川市ならではの学力向上策

令和5年度 田川市ならではの学力向上策（学力ステップアップ事業）



田川市ならではの学力向上策のイメージ図

学力ステップアップ事業の紹介

田川市教育委員会では、学校・家庭・地域・教育行政がそれぞれの役割を自覚し「ぐるみ」で未来の田川市や日本を担う子どもたちを育てることができるように、左図のような3つの歯車を連動させた「田川市ならではの学力向上策」に取り組んでいます。

今回は、子どもたちの学力保障及び学力向上に向けた市内小・中学校における取組を、それぞれの歯車を基に紹介します。

歯車① 徹底反復学習

【ねらい】

すべての学力の基盤となる学習能力（集中力、学習意欲、計算力、語彙力）を育成します。

【取組内容】

小・中学校それぞれにおいて、以下のような内容で学習をしています。

小学校：朝の学習（朝1回：10分程度）

- ① 音読（古典等を中心に一斉音読）
- ② 百マス計算（四則計算）
- ③ 漢字練習（当該学年漢字の前倒し）
- ◎ 2～3週間同じ内容を反復する。

中学校：モジュール学習（朝昼2回：10分程度）

- ① 数学（百マス計算、計算練習 等）
- ② 国語（漢字、音読、熟語練習 等）
- ③ 英語（リスニング、ライティング 等）
- ◎ 2～3週間同じ内容を反復する。

全校一斉に取り組むことで、教員や児童生徒にとっては、毎日のルーティーン（日課）となり、習慣化されています。また、各校においては、2～3週間の短い間隔で小テストを実施したり、学期に1回程度百マス・漢字コンクールに取り組んだりするなど、子どもたちが自分の伸びを実感できるような取組を進めています。さらに、子どものやる気を引き出し継続させるために、個人や学級に賞状を送るなどの表彰式を実施し、より効果のある取組となるよう工夫しています。今後も、各校において学力向上策を随時見直ししながら、より効果のある取組になるよう発展させていきます。



朝の学習に取り組む様子



表彰式の様子